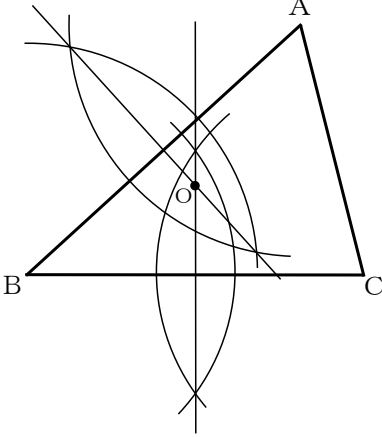


問題番号 配点	正 答 例	採点のポイント
<p>①</p> <p>[問 9]</p> <p>配点 6 点</p>		<p>○垂直二等分線の作図の方法を用いて、頂点A、頂点B、頂点Cから等しい距離にある点Oが正確に示されている。</p>
<p>②</p> <p>[問 2]</p> <p>配点 7 点</p>	<p>半径が a cm, $(a+1)$ cm, $(a+2)$ cm, $(a+3)$ cm の円の面積は、それぞれ πa^2 cm², $\pi(a+1)^2$ cm², $\pi(a+2)^2$ cm², $\pi(a+3)^2$ cm² となる。 P, Q, R をそれぞれ a を用いた式で表すと、 $P = \pi(a+3)^2 - \pi(a+2)^2 = 2\pi a + 5\pi$ $Q = \pi(a+2)^2 - \pi(a+1)^2 = 2\pi a + 3\pi$ $R = \pi(a+1)^2 - \pi a^2 = 2\pi a + \pi$ これらより、 $P - Q = (2\pi a + 5\pi) - (2\pi a + 3\pi) = 2\pi \dots\dots\dots (1)$ また、 $Q - R = (2\pi a + 3\pi) - (2\pi a + \pi) = 2\pi \dots\dots\dots (2)$ (1), (2) より、 $P - Q = Q - R$ したがって、P から Q をひいた差と、Q から R をひいた差は常に等しくなる。</p>	<p>○(円の面積) = (半径)² × (円周率) の考え方によって、円の面積が、文字を用いた式で適切に表されている。</p> <p>○P, Q, R を、それぞれ文字 a を用いた式で表すことができている。</p> <p>○P から Q をひいた差と、Q から R をひいた差が等しくなることが的確に示されている。</p>
<p>④</p> <p>[問 2]</p> <p>①</p> <p>配点 7 点</p>	<p>△AMD と △CQP において、 四角形 ABCD は平行四辺形だから、 $\angle MAD = \angle QCP \dots\dots\dots (1)$ 四角形 ABCD は平行四辺形だから、 $AB \parallel DC$ 平行線の錯角は等しいから、 $\angle AMD = \angle QDM \dots\dots\dots (2)$ 仮定から、$DM \parallel QP$ 平行線の同位角は等しいから、 $\angle QDM = \angle CQP \dots\dots\dots (3)$ (2), (3) より、 $\angle AMD = \angle CQP \dots\dots\dots (4)$ (1), (4) より、2 組の角がそれぞれ等しいから、 $\triangle AMD \sim \triangle CQP$</p>	<p>○正しいと認められる事柄について、根拠を明確にして記述し、仮定から結論を導く推論の過程が的確に示されている。</p>

各学校において、採点のポイントを踏まえて『部分点の基準』を作成し、『部分点の基準ごとの点数』を定めること。

なお、受検者の実態等に応じて、次の例のように詳細な基準を定めることができる。

- ・ 「○○について××が書かれている。」のように、具体的な内容を加えること。
- ・ 「○○と△△が書かれている。(3点)」「○○が書かれている。(2点)」「△△が書かれている。(1点)」のように、段階を設け、段階ごとの点数を設定すること。
- ・ 「誤字が一つ以上ある。(1点減点)」のように、部分点の基準を加えること。